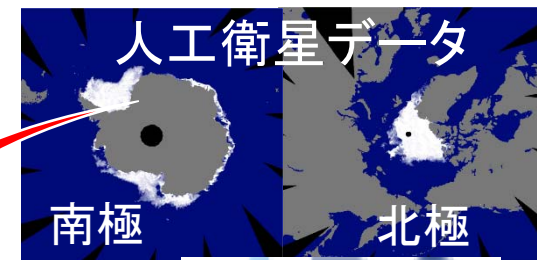


極域データの統合サイエンス プラットフォーム

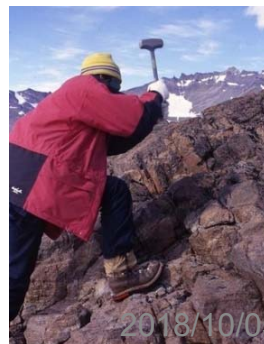
田中良昌^{1,2}, 梅村宜生³, 阿部修司⁴, 南山泰之², 新堀淳樹³,
中野慎也⁵

1. 極域環境データサイエンスセンター, 2. 極地研,
3. 名大ISEE, 4. 九州大ICSWSE, 5. 統計数理研究所

極域データの統合サイエンスプラットフォーム



極地研の多種多様なデータの検索、データ取得、描画等が可能な統合プラットフォームを新たに開発している。



統合データサイエンスプラットフォーム

- 目的:

- ✓ DS事業の一環として、多種多様なデータに対して応用可能なプラットフォームを開発し、将来的に全国の大学の研究力強化、及び、オープンサイエンスに貢献する。
- ✓ そのテストケースとして、2018～2019年度に、極地研が所有する極域データを統合的に扱えるサイエンスプラットフォームを開発する。(AMIDERプロジェクト)
- ✓ 将来的には、データ駆動型サイエンスに繋がる手法を取り入れる。(2019年度以降)

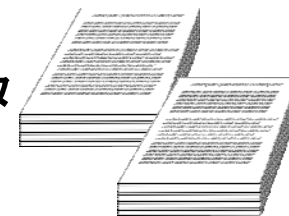
- ターゲット

- ✓ 研究者、及び、一般市民(主として教員や大学生・高校生)。
- ✓ 一般市民により重心を置く(7:3ぐらい)。

データ提供者(PI)が得るリターンと問題点

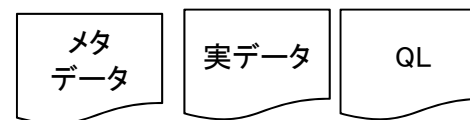
得られるリターンは？

- データ検索、描画、実データダウンロード、類似データ表示サービス
- 新たなデータユーザ(研究者、教育関係者)
- 研究成果のクレジット(共同研究論文の増加)
- ステークホルダーや一般市民への成果公開・アウトリーチ
- 論文投稿時のデータ公開の省略(近年は、データ公開が義務化していることが多い。)



データ提供者が行うべき作業

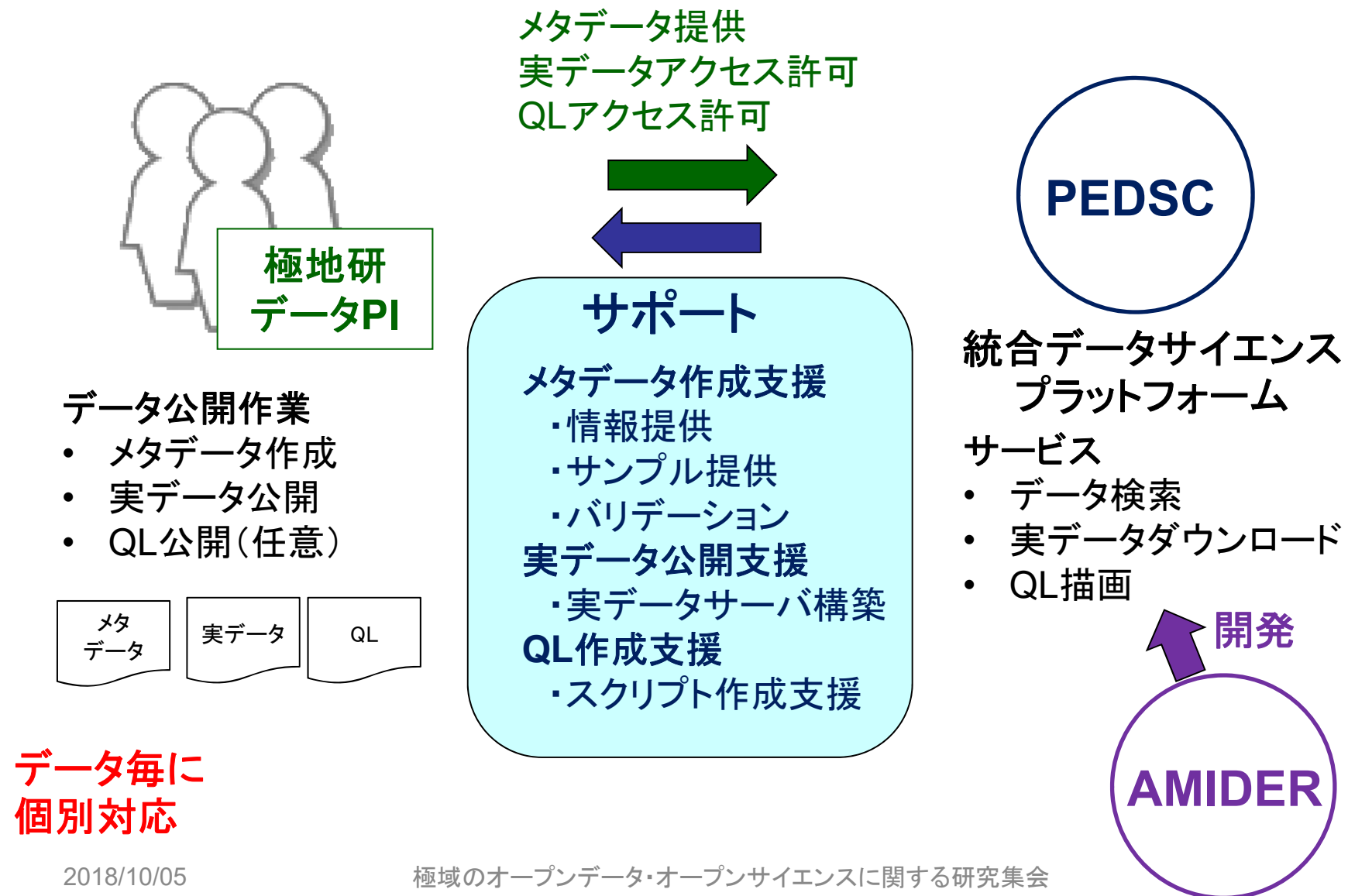
- メタデータの作成
- 実データの公開
- クイックルック(QL)の公開(任意)



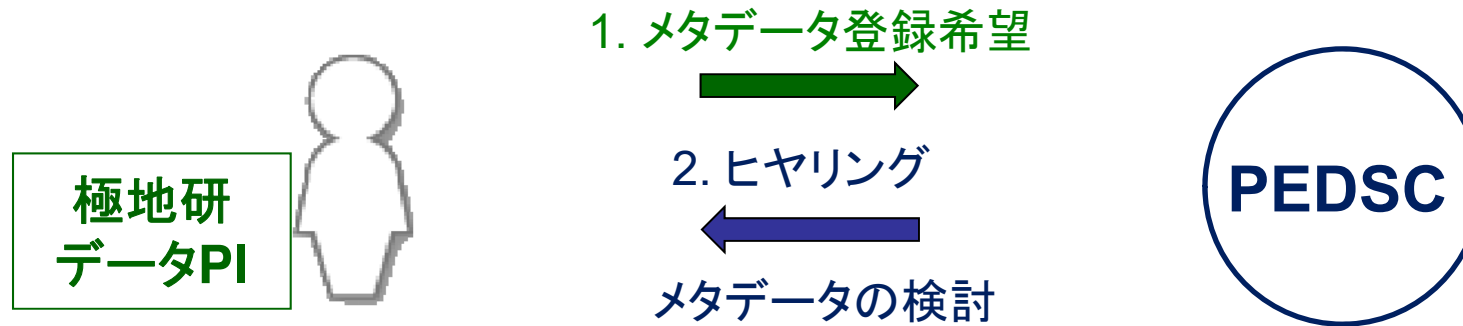
問題点

- マンパワー、資金が足りない。
- やり方が良くわからない。

データ提供者の作業と得られるサポート



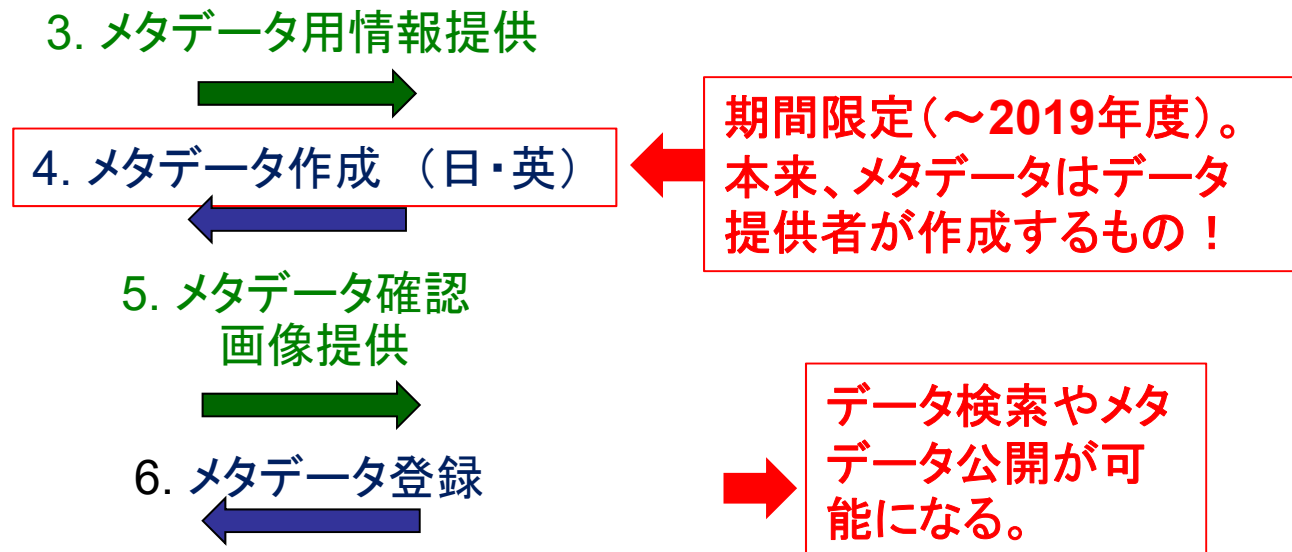
作業フロー(メタデータ登録)の例



既にメタデータがある？

Yes → 基本的に、それをそのまま使う。

No → 分野特有のメタデータフォーマットがあれば、それを利用。
無ければ、既存のフォーマット(DIF, ISO19139, spase)を利用。



まとめ

- 統合データサイエンスプラットフォームは、極地研の多種多様なデータを統合的に扱えるサービスを提供します。ターゲットは、一般市民（特に、教員や大学生・高校生）を含みます。
- 上記プラットフォームにより、共同研究の促進、研究成果の発信等、多くのメリットがあります。
- 今なら、（本来、データ提供者が行うべき）**メタデータの作成をPEDSCで行います**ので、ご協力をよろしくお願いします。（～2019年度まで期間限定！）